

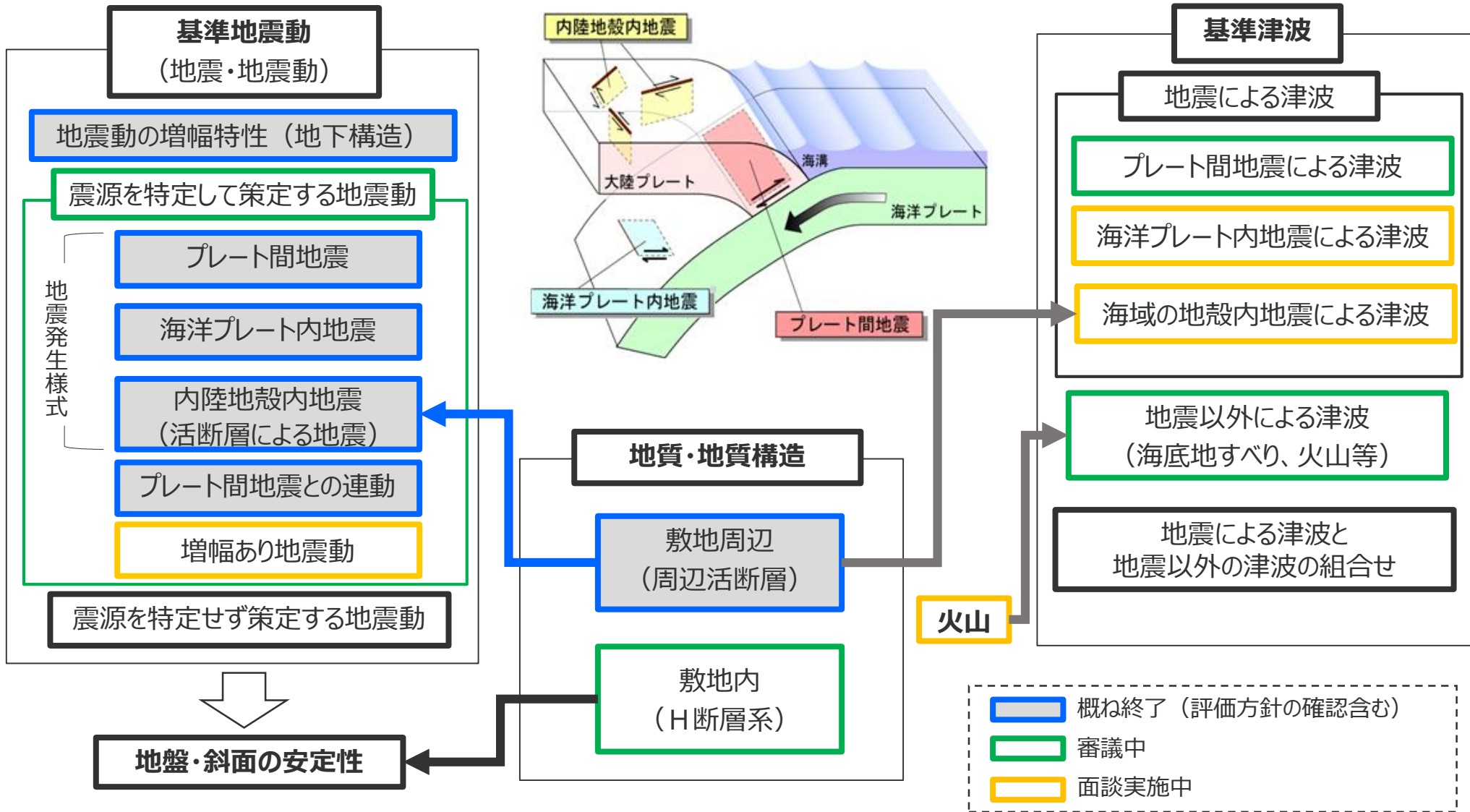


中部電力

# 浜岡原子力発電所 新規制基準に対する適合性確認審査（耐震）

2020年7月17日

# 新規制基準に対する適合性確認審査

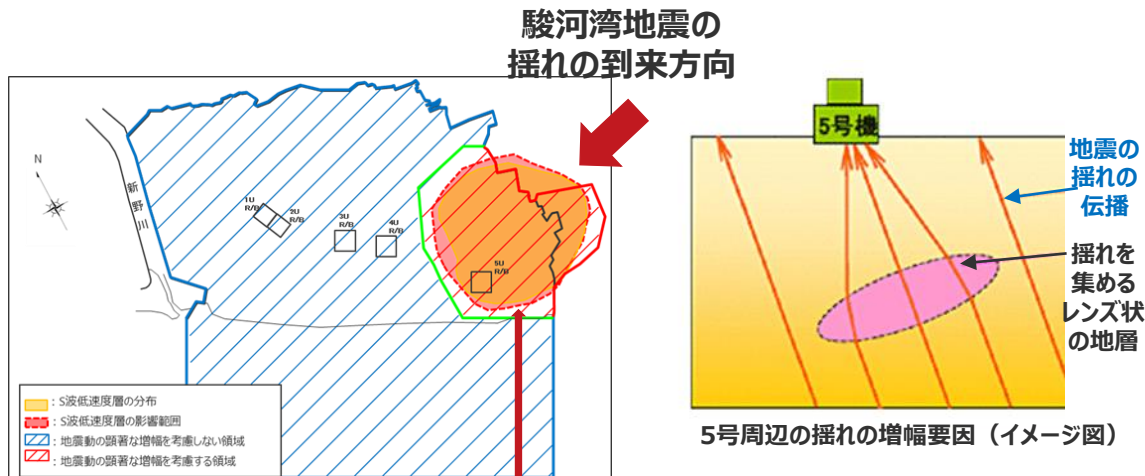


# 新規制基準に対する適合性確認審査

- プレート間地震と内陸地殻内地震等との連動（増幅なし）の審査が2020年2月28日の審査会で概ね妥当と評価された。現在、5号周辺に考慮する**増幅あり地震動**の審査中。その後、**震源を特定せず策定する地震動**の審査，基準地震動Ssの審査となる。

## 増幅あり地震動（切分け）

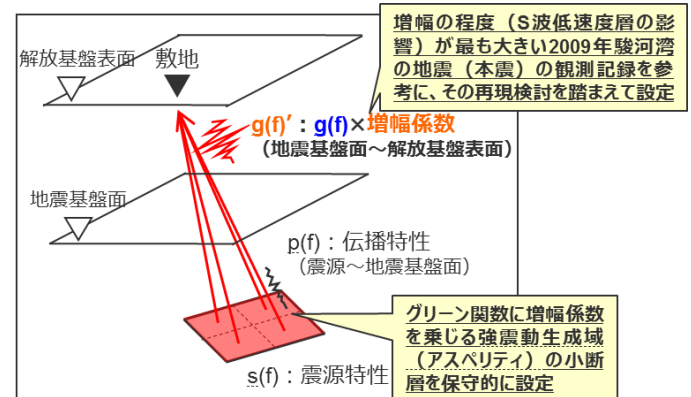
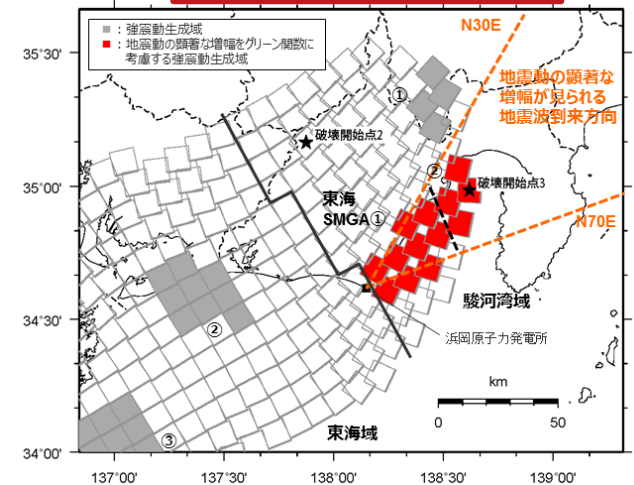
2009年に敷地の北東方向で発生した駿河湾地震では5号周辺（オレンジ部）でのみ顕著に大きな揺れがみられた。



増幅ありの領域（赤）と増幅なしの領域（青）

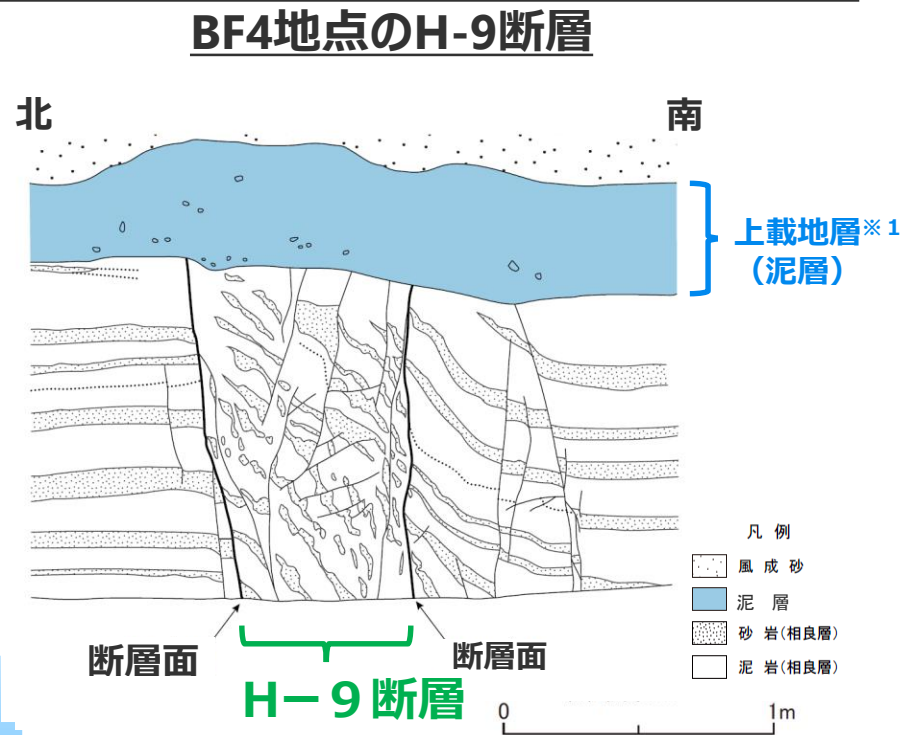
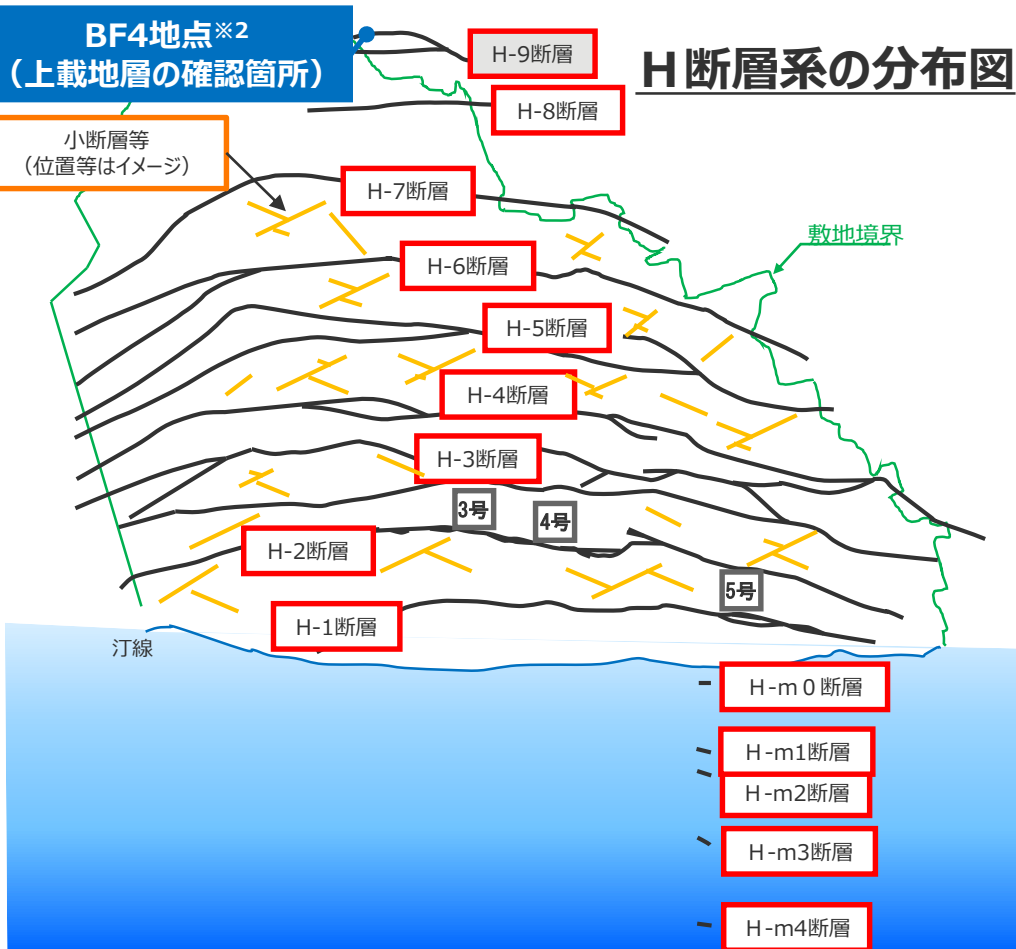
今後、増幅ありの領域（赤斜線部）に設定する地震動の設定方法について説明する。

## 増幅地震動の設定



# 新規制基準に対する適合性確認審査

- 浜岡原子力発電所の敷地内には、H断層系と呼ぶ地層のずれがあることを確認している。当社はこれまでに詳細な調査を実施し、H断層系は地層が堆積して間もないまだ固結していない時期（数百万年前）に形成されたものであり、その後は活動しておらず、少なくとも後期更新世（約12～13万年前）以降における活動はないと評価しており、現在、審査中。



- ※1 新規性基準では、断層を覆う後期更新世（約12～13万年前）以前の**上載地層**が、変位・変形を受けていないことを確認できれば、その断層の活動性はないと判断される。
- ※2 浜岡では、後期更新世以前の上載層の分布が限定されており、BF4地点でしか確認できない。

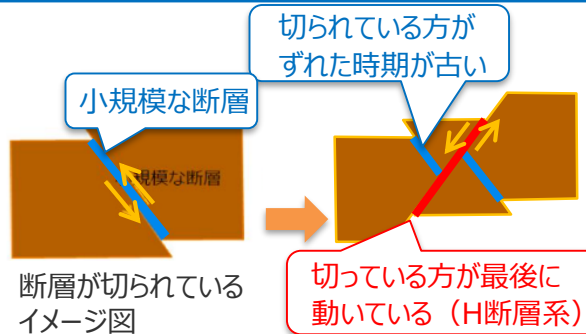
# 新規制基準に対する適合性確認審査

- H断層系の活動性については、敷地内に活動年代が評価できる上載地層（12～13万年前以前）などがな  
いため、下記の流れに沿って活断層等ではないと評価し、現在審査中。

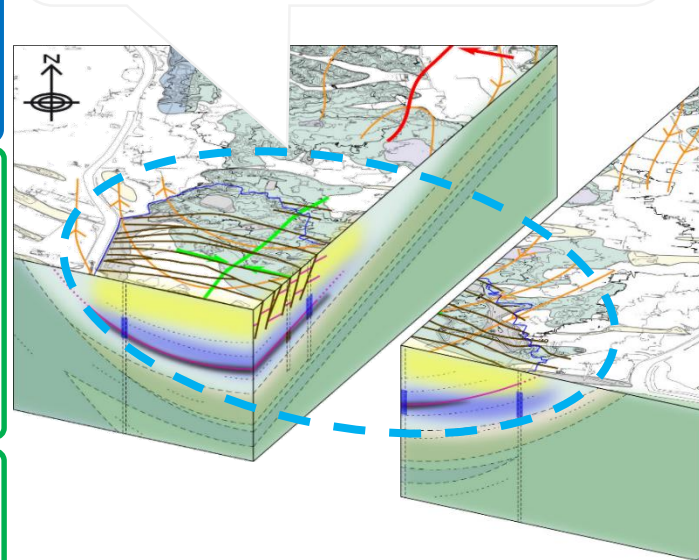
## ①【評価対象とする断層の代表性】 敷地内の断層のうち、H断層 系を活動性評価の対象とする。

- ・最後に動いたH断層系の活動性を否定  
できれば他の断層は全て否定できる。

➡ 了解(7月3日審査会合)



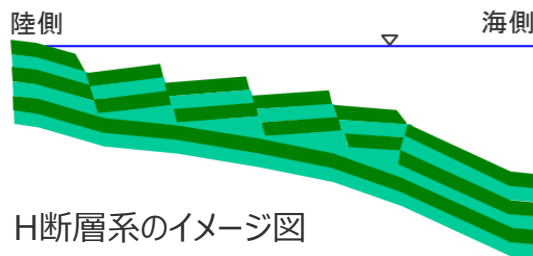
H断層系は遅くとも2百万年前以  
上前の同時期に一体となってでき  
た一連の断層グループであり、  
その分布はある範囲に限定される



ボーリング調査等の結果から作成した敷地深部  
の地質構造のイメージ

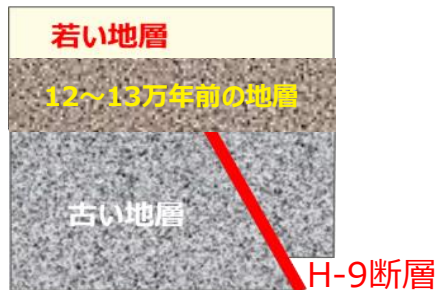
## ②【H断層系の分布・同一性】 H断層系は一連のグループであり、 同時期に形成されたものである。

- ・H断層系は遅くとも2百万年以上前の同時  
期に一体となってできたものであるため、どの  
断層でも全体の活動性を評価できる。



## ③【H断層系の活動性】 H断層系は約12～13万年前 以降活動していない。

- ・12-13万年前の上載地層が動いていない  
ため、H-9断層の活動性は否定できる。



➡ ①～③から1本（H-9断層）の活動性を否定することにより敷地全部の断層の活動性を否定できる

# 新規制基準に対する適合性確認審査

- 津波発生要因ごとに敷地への影響を評価して説明。
- 敷地に最も影響が大きいのがプレート間地震（南海トラフの地震）による津波である。

